
新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 12月27日～1月2日

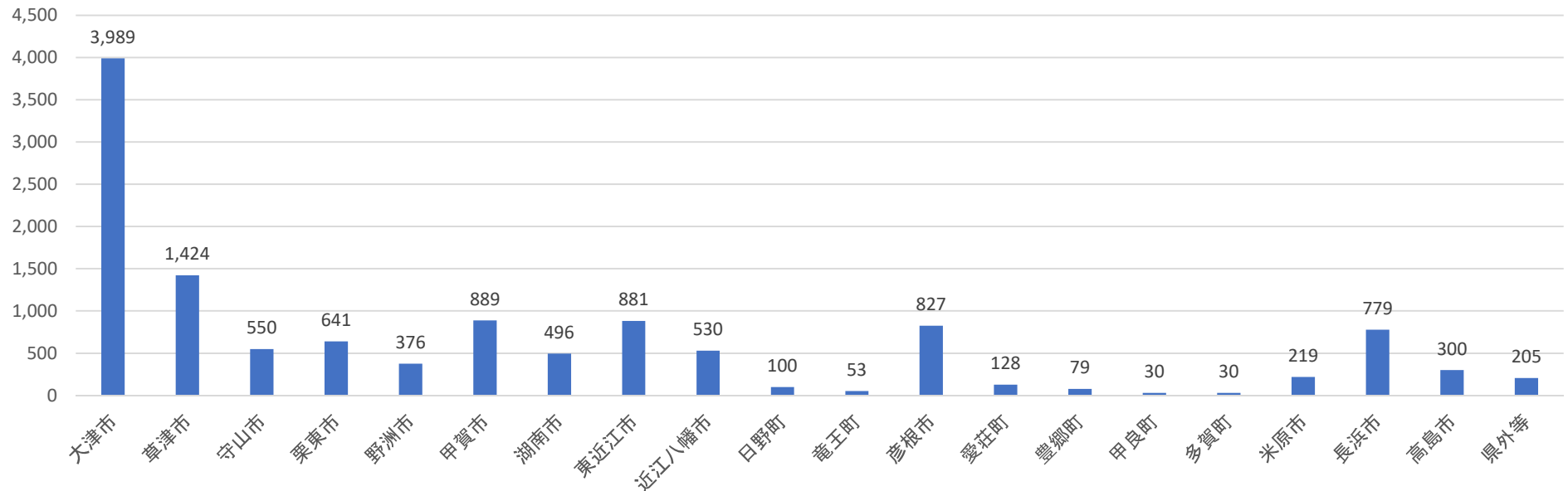
1月4日 健康医療福祉部感染症対策課

1、県内の感染状況について

1) 県内の陽性者発生状況

	新規感染者数
今週の報告数(12/27~1/2)	54人
累計(1/2時点)	12,526人

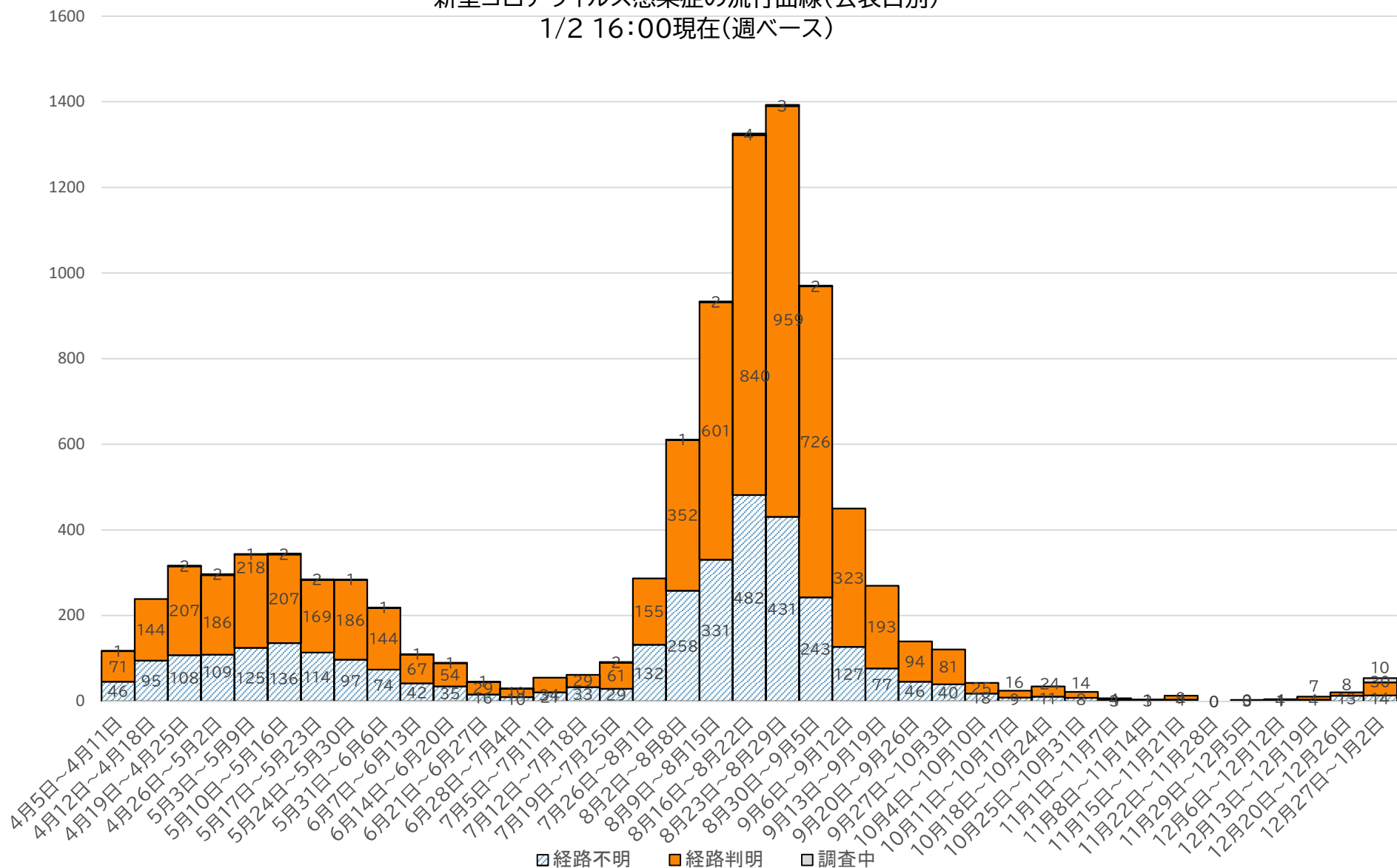
2) 市町別の累計陽性者発生状況



3) 県内の感染動向

新型コロナウイルス感染症の流行曲線(公表日別)

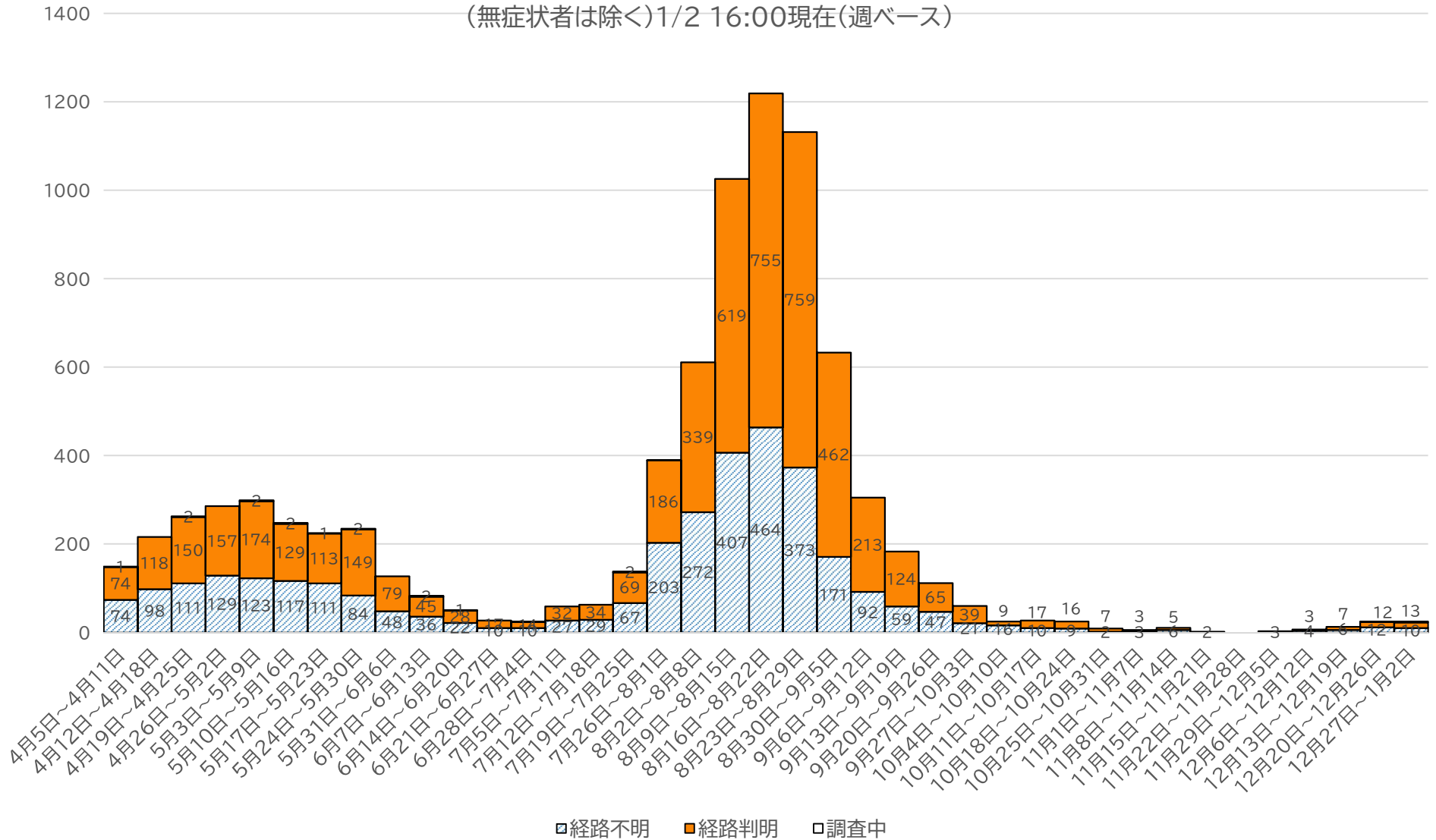
1/2 16:00現在(週ベース)



流行曲線：感染症の流行を経時的に観察し、流行の特徴を把握することができます。

②流行曲線(発症日別)(1月2日現在)

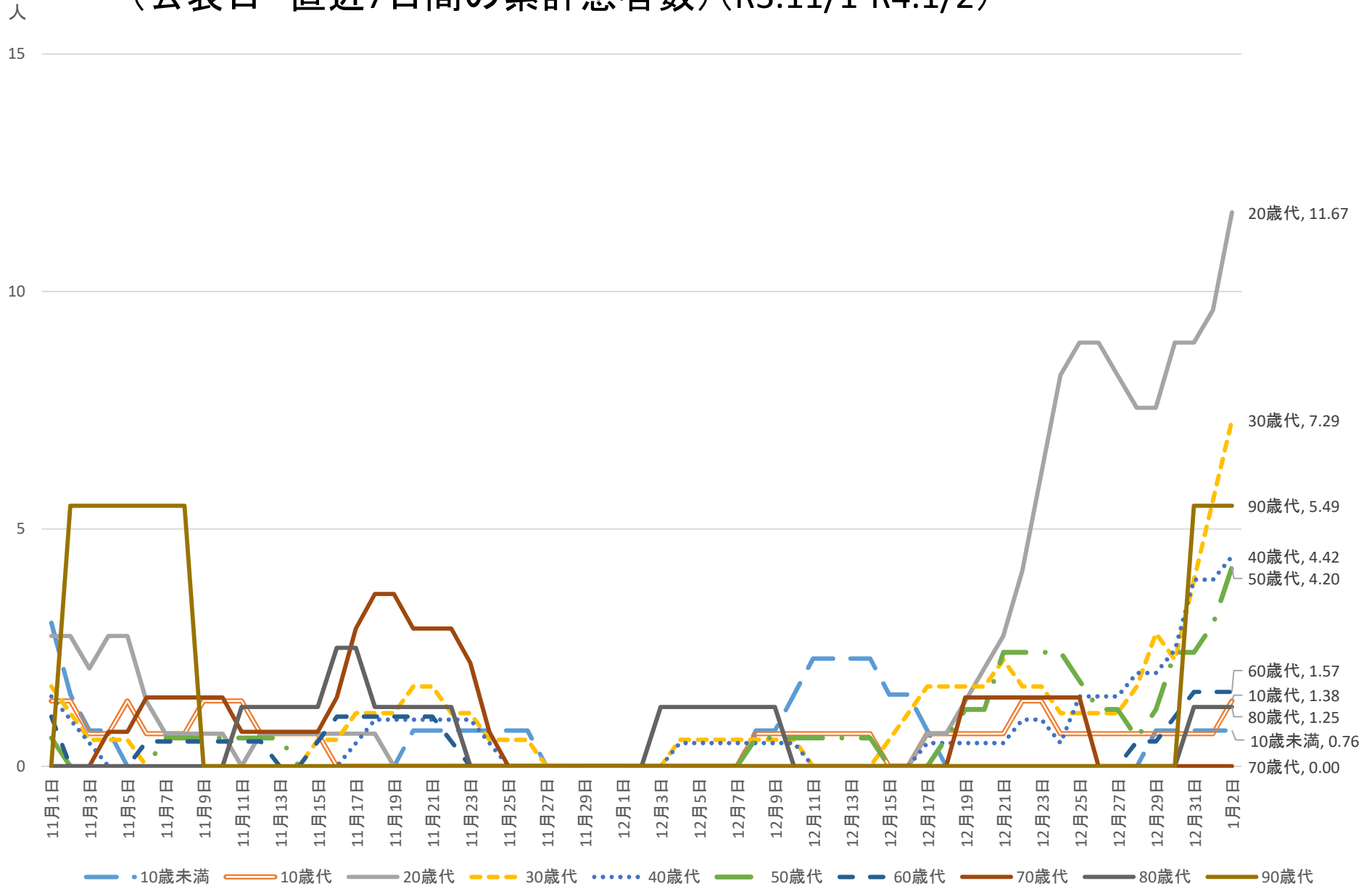
新型コロナウイルス感染症の流行曲線(発症日別)
(無症状者は除く)1/2 16:00現在(週ベース)



注)無症状者を計上していません。今後1/2以前に発症した患者が届出されることがあります。

4)年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

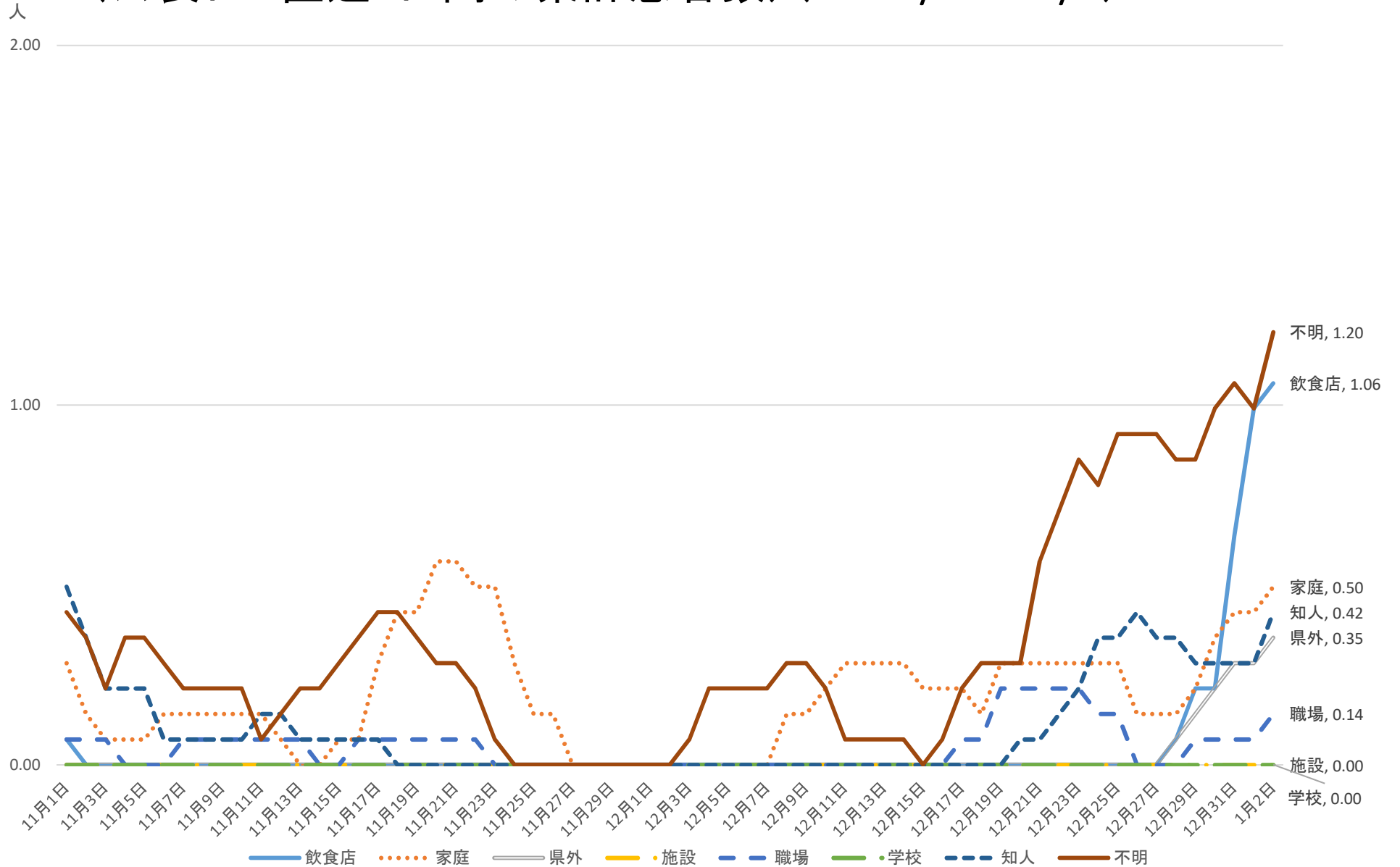
(公表日 直近7日間の累計患者数)(R3.11/1-R4.1/2)



5)陽性者の感染経路(10万人あたり)推移

(公表日 直近7日間の累計患者数)(R3.11/1-R4.1/2)

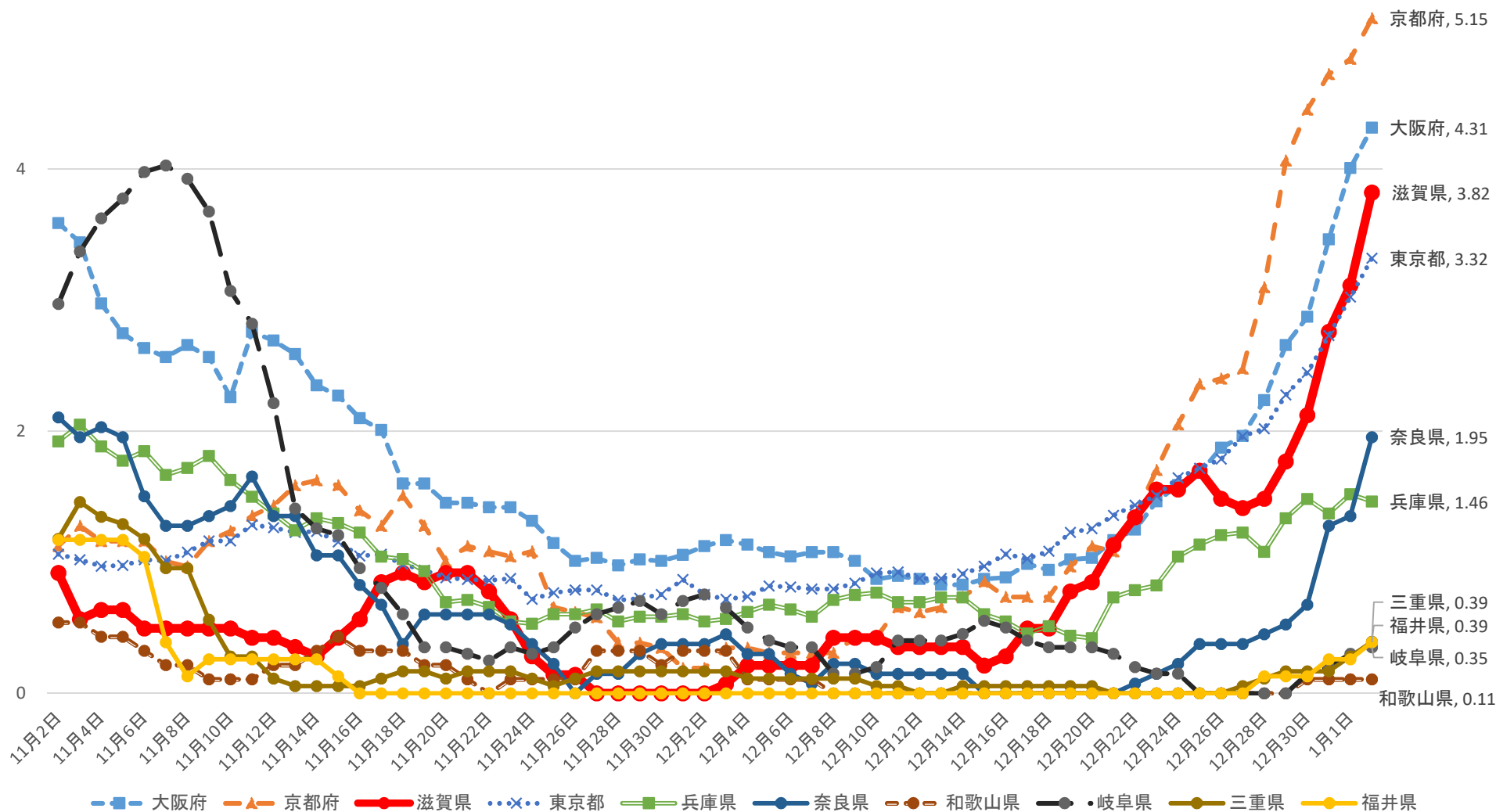
(調査中除く)



6) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移

(直近7日間の累計患者数)(R3.11/1-R4.1/2)

人
6



2、県内の感染状況と体制について(1/2現在)

1) 県内の病床数および宿泊療養施設の状況

	県内 病床数					県内 宿泊療養 部屋数					
		入院者数	空床数		療養者数		清掃・修理待ち	空数			
			県内発生	その他					県内発生	その他	
総数	399	26	21	5	373	677	27	27	0	61	589

2) 県内の陽性者発生状況

項目	陽性者数累計	現在 陽性者数					入院予定等	宿泊 療養	退院等	死亡
			入院中							
				重症	中等症	軽症				
PCR検査数 (うち行政検査分 (うちその他検査分	199,158 73,273 125,885)	62	21	0	1	20	14	27	12,360	104
	(うちPCR検査判明分 9,079)									
抗原検査数	98,947	(うち抗原検査判明分 3,447)					(うち自宅療養 6)			

重症：人工呼吸器またはECMO(体外式膜型人工肺)が必要

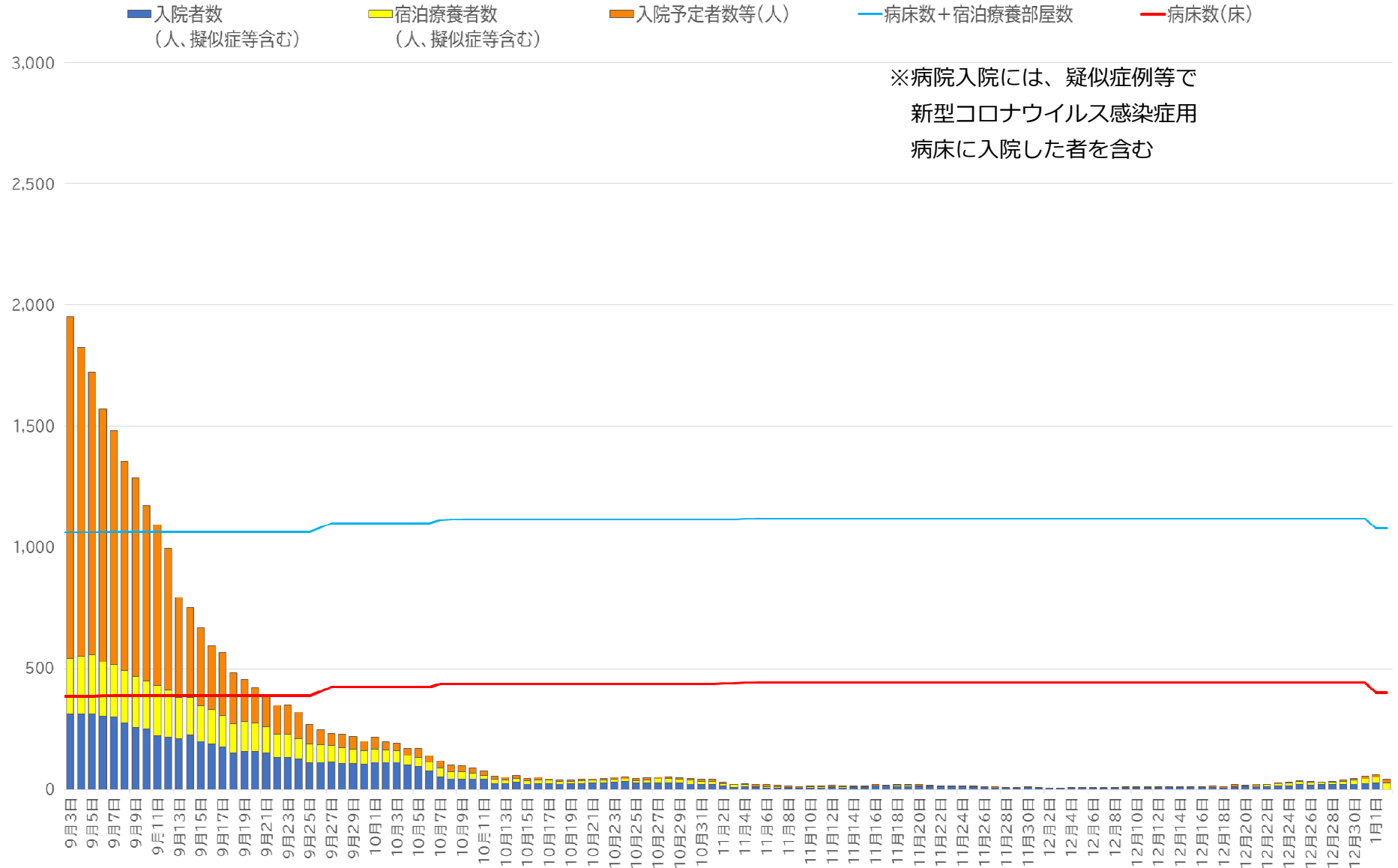
中等症：酸素投与が必要または摂食不可能

軽症：無症状または酸素不要、摂食可能

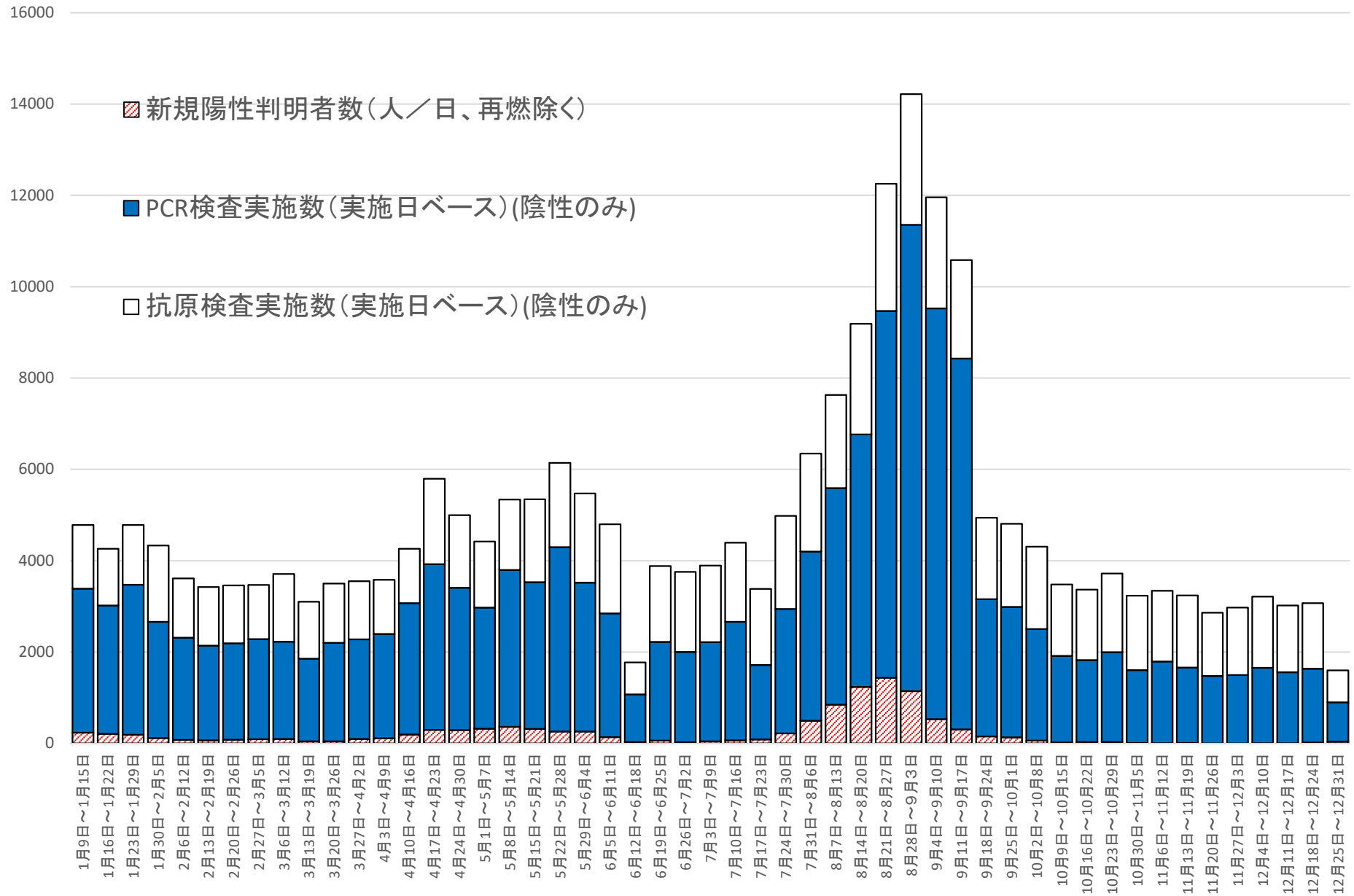
重症者以外のICU(集中治療室)利用者数

0人

3)入院医療体制について



4)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



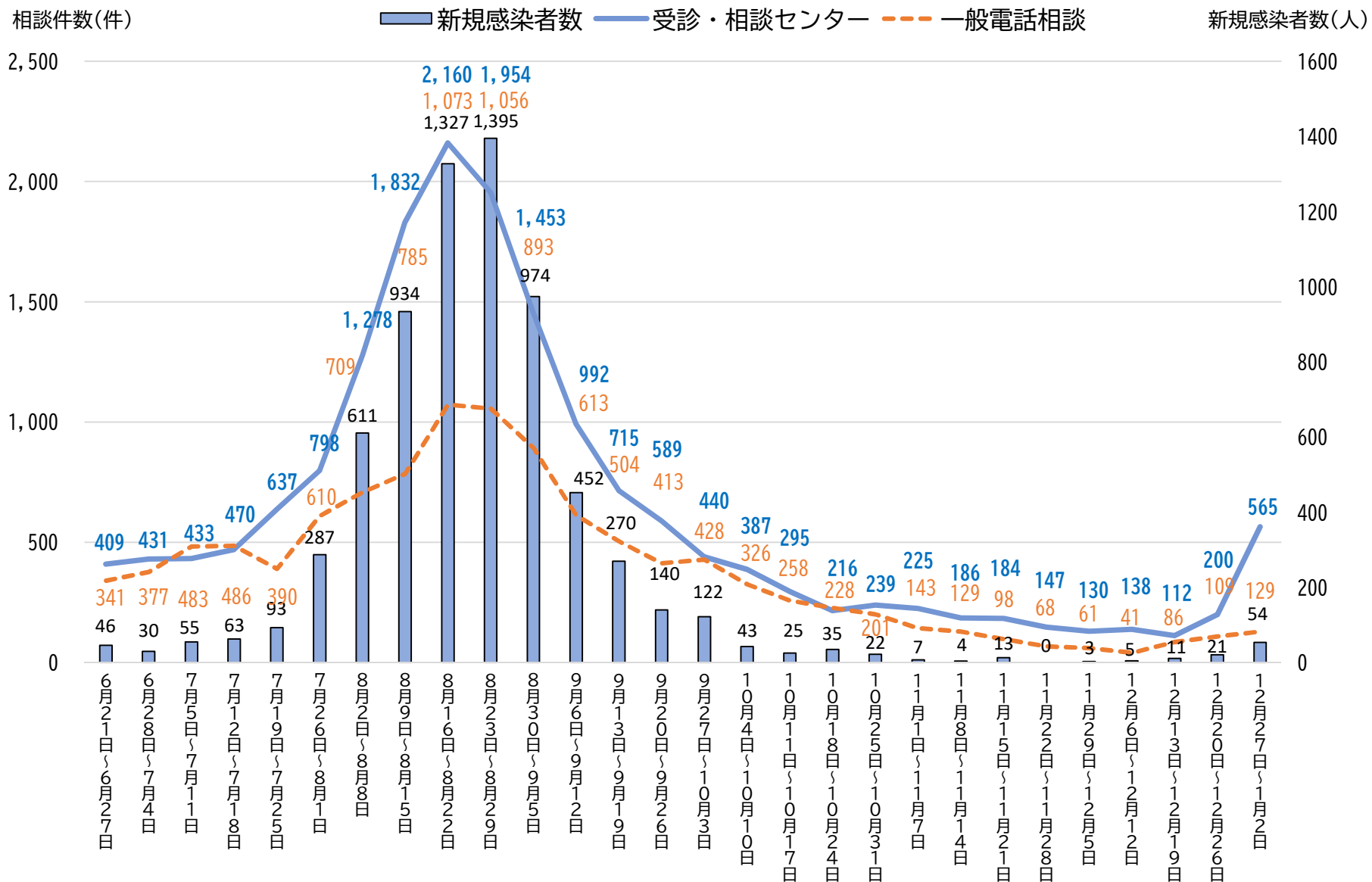
5)陽性率(7日間移動平均)



- 陽性率の7日間の移動平均(その日までの7日間の平均)を見ると、12月31日現在の陽性率は2.4%でした。

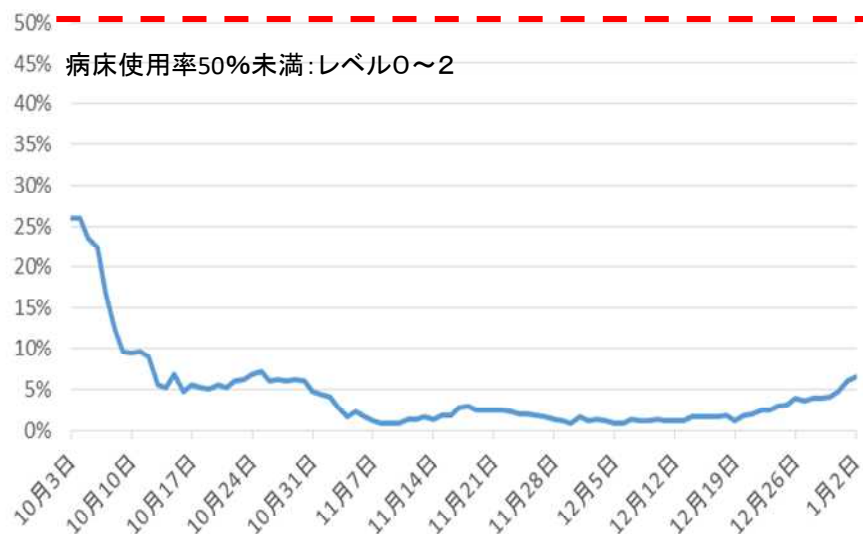
6) 相談体制について

相談件数と新規感染者数（週計）

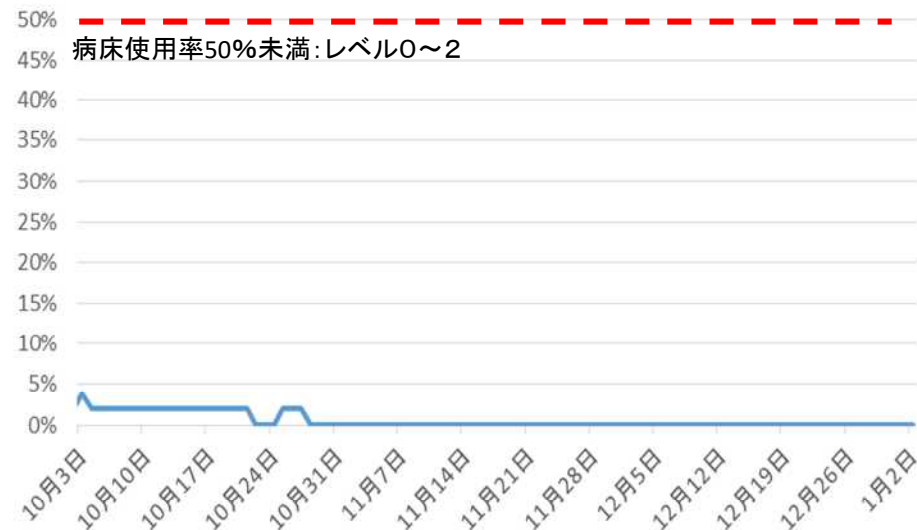


7) その他の県内の感染動向

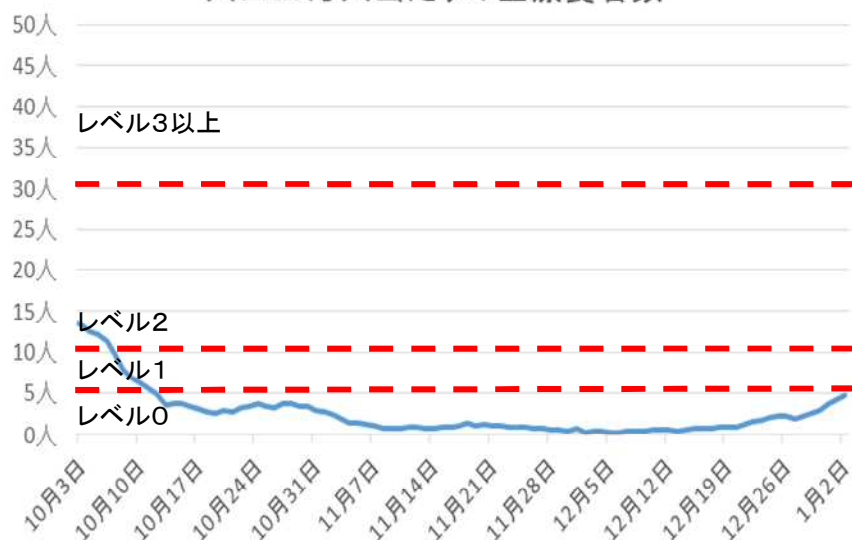
最大確保病床の占有率



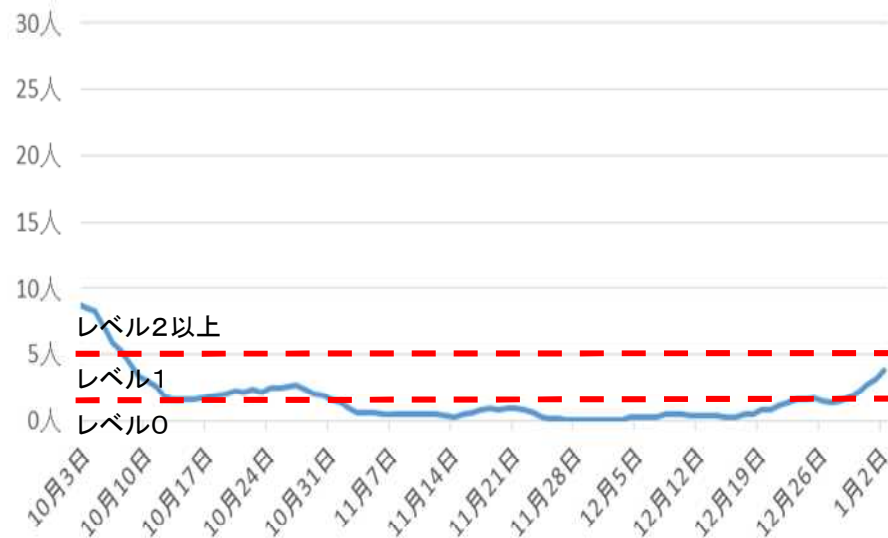
重症者用病床の最大確保病床の占有率



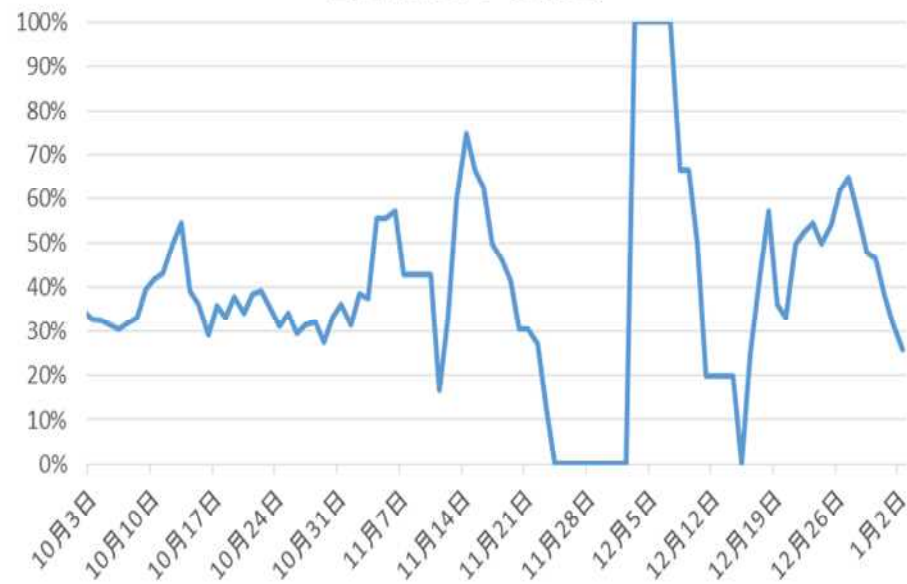
人口10万人当たりの全療養者数



直近1週間における人口10万人
当たりの新規報告数



感染経路不明割合



評価(R3.12/27~R4.1/2の感染状況)

- 本県の今週の新規陽性者数は54人と5週間連続で増加傾向にあります。第5波の立ち上がり時に特徴的であった20歳代および感染経路不明者の増加が見られています。また、10月下旬以降確認されていなかったクラスターも発生しました。
- 他都府県の状態を見ると、東京都、大阪府や京都府などの都市部で増加傾向が続いています。これらの状況から、増加局面に入ったと考えます。
- 年末年始において、忘年会・新年会、お正月休み、帰省や旅行等で日常では生じない接触や会食の機会が増えたことが想定され、今後、新規陽性者数が急増することが危惧されます。
- オミクロン株については、本県でも陽性者が確認され、大阪府および京都府等で市中感染の報告があります。アドバイザリーボードでは「地域で一定規模の伝播が起きている可能性」があるとしています。英国などでは、デルタ株よりもさらに早く感染拡大していると報告されています。
- 今後の感染拡大を防ぐためには、継続して手洗いやマスク着用等、基本的な感染対策を徹底することが必要であり、オミクロン株に対しても有効です。また、気温が低下し屋内での活動が増加することも想定されますので、十分な換気を行うなど、密を回避する対策も心がける必要があります。